

2024年度 活動報告

I. 運営に関する事項

I. 総会の開催

第23回定時総会

2024年5月26日(日) 14:15～ co-en ミーティングルーム01

2023年度活動報告の承認を求める件

2023年度決算報告の承認を求める件

2024年度活動計画(案)の承認を求める件

2024年度活動予算案(案)の承認を求める件

2024年度役員(案)の承認を求める件

2. 理事会の開催

2024年4月29日(日) 16:30～17:50

2023年度活動報告、収支状況についての報告

2024年度活動案、2024年度予算案、2024年役員案などについて協議

3. 合同委員会(むすびつくば運営協議会・理事会)の開催

2024年4月29日(日) 18:00～20:00

2023年度活動報告、収支状況についての報告、2024年度活動案、予算案、運営体制

2024年7月27日(日) 18:00～20:00

ライズ学園のあゆみと現状、フリースクールそして公立学校が抱える課題、検討すべき事項を共有、アドバイザー会議の目的や会のもち方について相談

2025年1月25日(土) 18:00～20:00

2024年度むすびつくばライズ学園活動状況、会計報告、2025年収益事業計画

Ⅱ. 事業に関する事項

Ⅰ、むすびつくばライズ学園運営事業

2024 年度目標と振り返り

- リヴォルヴ学校教育研究所理事会とむすびつくば運営協議会とによる合同委員会のあり方を見直した上で、新たに委嘱するアドバイザーとともにライズ学園が目指す方向性について協議を続け、今後の活動指針を打ち出せるようにする。

【振り返り】

- ・ 「新しい公共」の理念のもとに、ユニベルシタスつくばとの協働運営による新拠点を構えることができた。
- ・ 当法人理事とむすびつくば運営委員による合同委員会をもつなどして、ライズ学園およびむすびつくばが目指す方向性について協議を重ねた。具体的なアドバイスを得て、教材作成や Web サイトの構築などに協力者を増やすことができた。

- 農業や調理など体験的な学びの機会を充実させるとともに、ICT を活用するなどして一人ひとりに異なる学び（LD：Learning Differences）をサポートすることで、子どもたちが自身を肯定的に受け入れ、前を向いて歩む意欲を育む。

【振り返り】

- ・ 調理や手芸、理科教室や農業体験、SDGs に関する講座など、地域の方々の協力のもと、体験的な学びの機会を設けることができた。
- ・ 学びプラネット合同会社と協働し、iPad を学びツールとして活用するなどして LD（Learning Disabilities：学習障害 / Differences：学び方の違い）にも配慮した支援に努めた。その結果、日々の表現活動の中で、子ども自身が自ら iPad を使う機会が増えた。

- 子どもたち自身が将来への見通しをもてるようにすること、そして保護者や在籍校との連携を深めることを目的に、専門家の助言も得ながら個別支援計画を作成する。

【振り返り】

- ・ 2024 年度は「むすびつくばライズ学園」を週に 5 日、延べ 209 日開級。2025 年 3 月の時点で利用者数は 36 名、延べ登所者数は 2,000 名、1 日あたりの登所者数は、月火木金クラスが 10.6 名、水曜クラスが 5.7 名となった。
- ・ 登校を再開したため利用を終了した子が 3 名、3 月には 9 年生 6 名が全日制高校、通信制高校に進学をした。
- ・ 在籍校 21 校に、担当スタッフと学校連携コーディネーター（臨床心理士）が訪問し、情報交換を行った。他にも、毎月文書での活動報告、必要に応じて訪問等を行った。また、在籍校教職員、保護者、スタッフの三者でのケース検討会議に参加し、支援方針を話し合う機会もあった。
- ・ 個別支援計画の作成までにはいたらなかったが、専門家の助言を得ながら支援方法について相談し、実際の支援にあたった。
- ・ 市内の小中学校全校に校内フリースクールが設置されたこともあると思われるが、週 3 日以上の利用希望は少なく、実際には週 1 日の利用が多かった。
- ・ 水曜クラスは、大人数や大きな声や音が苦手な子も対象とを考えていたが、慣れるにしたがい活発になっていく子とあとから入ってきた子それぞれのニーズに対応することに苦慮したため、定員を 8 名から 6 名に改めた。

- 他の団体や個人、保護者とも協働し、健康や生（性）、安全などをテーマとしたオプション講座を充実させ、Well-being の達成を支援する。

【振り返り】

- ・ ピア・カウンセリングを兼ねた 親の会：親カフェ を つくば子どもと教育相談センター の協力で全 11 回開催し、述べ 61 名の参加があった。
- ・ 6 月には、保護者委員が中心となり、卒業生家庭との交流企画イベントを実現した。
- ・ 生（性）教育に関して、保護者や講師と相談を重ね、保護者とスタッフがともに学びあう機会や親子対象の学習会を開催した。
- ・ 保護者委員とスタッフとの会議を隔月 1 回程度設けた。保護者委員からの発案で、テーマを設けて通して集まる「ocha-nova(お茶の場)」や家庭に向けた通信の発行、SNS アカウントの立ち上げなど、活動が充実した。

《スタッフ一覧（2025 年 3 月時点）》 *印は教員免許所持者

氏 名	経歴等	担当クラス
本山 裕子	元公立中学校教諭	スーパーバイズ *
北村 直子	元公立中学校講師	国語 *
松井 由佳	筑波大学人間学類教育学主専攻卒業	社会、数学 *
佐々木 侑紀	二松学舎大学 国際政治経済学部卒業	社会 *
小野村 哲	元公立中学校教諭	英語 *
梅澤 亜希子	元公立中学校講師	英語 *
渡辺 沙矢香	元公立小学校教諭 / 公認心理師	算数、理科 *
平石 哲	デザイナー	絵画造形
谷島 弘恵	元放課後児童支援員	絵画造形
大嶋 愛子	元公立保育園保育士	算数、サークルタイム *
早見 恵一	元会社員	フリースペース
原嶋 彩子	特別支援学校 非常勤 / 特別支援教育士	研修・ICT *
浅井 希乃華	筑波大学人間学群教育学類 3 年	水曜クラス
渡邊 千尋	筑波大学人間学群教育学類 3 年	水曜クラス
味田 恵莉	筑波大学人間学群教育学類 2 年	フリースペース
椎名 千春	元会計事務所勤務	経理事務

《外部講師》

氏 名	所 属	担当クラス
井上 真理子	NPO 法人 Next.one	スポーツ教室（毎週火曜日）
川上 沙羅	NPO 法人ユアフィールドつくば	農業体験（年 2 回）

《教育相談》

氏 名	経歴等	担当
穂積 妙子	つくば子どもと教育相談センター 代表 臨床発達心理士、元公立中学校教諭	教育相談・学校連携
和田 あさ	臨床発達心理士、公認心理師	教育相談

《特別活動講師》

- ・つくば警察署 防犯交通安全課：交通安全教室（自転車シュミレーター体験と交通安全クイズ）
- ・松崎貴志氏：SDGs プログラム（マイクロプラスチックの回収・脱炭素まちづくりカレッジ体験）
ドローン体験教室（ドローンを知ろう、動かしてみよう）
- ・石川真由美氏：調理教室（収穫したさつま芋を使ったデザート、出汁と塩の味をくらべてみよう～
塩むすびと簡単みそ汁づくり～）
- ・八畑博子氏：理科教室(水中生物の観察、科学実験調理)
- ・本山裕子氏：手芸教室（オリジナルトートバック作り）

2. 研修会事業

2024 年度目標と振り返り

- フリースクール・スタッフなど子どもの支援に携わる人、または携わろうとする人を主対象に、これまでの実践から得た学びを共有するオープンスクールを開催する。

【振り返り】

- ・ おむすびつくばライズ学園のオープンスクールを全1回、ユニベルシタスつくばと共催で視察研修を全2回開催し、延べ80名の参加者を得た。毎回、簡単なケース検討も取り入れ、双方向で参加者と学びあい、情報交換をする機会をもった。
- ・ 板橋区の議員や多様な学びプロジェクトの視察やインタビューを受け入れ、知見を共有した。他にも、山形県にある子育て支援施設のスタッフが視察に訪れた。

- 他団体と協働し「ICTを活用した学び支援」や「英語の苦手を回避、軽減する指導の手立て」に関する情報を発信するとともに、支援者に向けた研修講座を開催する。

【振り返り】

- ・ 奈良にある英会話スクール HAYA イングリッシュアカデミーと共催で、「英語が苦手」「勉強方法がわからない」などという保護者や支援者を対象にした英語学習に関するお悩み相談会（オンライン）を開催した。（<http://88-english.com/>）
- ・ これまでの活動の中で、繰り返されてきた子どもたちとのやりとりを茨城新聞（毎月第2金曜日）に掲載した。
- ・ 小学館の「みんなの教育技術」（<https://kyoiku.sho.jp/>）での執筆を開始した。2025年度も英語教育に関する記事と子どもの支援に関する記事の掲載を予定している。

3. 育ちと育ての環境共創事業（旧 学校・地域教育活動支援事業）

2024 年度目標と振り返り

- ユニベルシタスつくば、むすびつくば市民大学と協働し、ソーシャル・ファシリテーションについて学びあう機会を設けるとともに、アドバイザーの助言を得るなどしながら公民協働や横の連携のあり方について協議検討し、ともに社会をつくる関係の構築を図る。

【振り返り】

- ・ ユニベルシタスつくばと共催で視察研修会を全 2 回開催した。
- ・ 3 月 30 日には 1 周年記念イベントを開催、30 名の参加があった。オープンからの 1 年間の歩みの報告、参加者とともに 10 年後のむすびつくばを考えるフューチャーセッションを行った。
- ・ アドバイザー会議を持ち、今後の方向性や協働連携について助言を得た。
- ・ 地方都市の課題解決型事業に取り組む 株式会社 SHONAI が運営する学童クラブ、フリースクールを訪れ、施設を見学した。山形で読み書き支援をしている団体とも情報交換をした。
(<https://www.sorai.shonai.inc/>)

- 科学や社会、農業や地域の防災講座など、他団体や個人と協働し、従来の枠を超え、多様な興味、関心にそった学びと体験の場を充実させる。

【振り返り】

- ・ NPO 法人ユアフィールドつくば との協働により、土日に「それぞれの夢中に飛び込む ごきげん農業プログラム 2024」を 5 回開催し、38 名の参加を得た。昨年度に引き続いて参加する家庭もあり、農作業だけでなく畑で取れた食材を使っの昼食も好評だった。子どもと保護者が一緒に活動できるよい機会となった。(<https://yf-tsukuba.com/>)
- ・ むすびつくばライズ学園の卒園生を対象とした「放課後くらぶ」（月 2 回）を継続した。利用者は少なかったが、安心して過ごせる場所を提供することができた

- 校内フリースクール等における支援、部活動改革やオルタナティブ教育にまつわる動き、教育分野における官民の協働事例などについて情報を収集し、地域で学び合う機会を設ける。

【振り返り】

- ・ イエナプランについての学習会と座談会（主催：つくばに自由な学校をつくる会）に参加した。
- ・ 多様な学びプロジェクトが主催したシンポジウムにて、学校等との接点を増やす取り組み事例、連携を促進させる取り組み事例として、むすびつくばライズ学園での取り組みが紹介された。(<https://www.tayounamanabi.com/symposium20241212>)
- ・ 主にライズ学園保護者から行政の不登校支援政策等について随時情報を得て、話し合いの機会を持った。

- ・ 2023 年度に引き続き、筑波大学教育学域の「教育インターンシップ基礎論」での講義と「教育インターンシップ実践演習」での学生の実習受け入れを行った。2024 年度は 11 名の学生が 2 日間ずつライズ学園での実習を行った。実習後、学生スタッフとして活動に参加している学生もいる。
また、2024 年度は 3 名の筑波大生が学生スタッフとして活動に参加している。

4. 教材開発・教材販売事業

2024 年度目標と振り返り

- 「2025 年英単語カレンダー」と関連コンテンツを作成するとともに、「ひらがなれんしゅうちょう」を改訂する。

【振り返り】

- ・ 2025 年英単語カレンダーおよび単語タイピングコンテンツを作成し、Amazon、TSUTAYA 等でも販売するとともに、生活クラブ東京、生活クラブ千葉、生活クラブ茨城、パルシステム茨城 栃木では、寄附付き商品として取り扱いいただいた。
- ・ 「ひらがなれんしゅうちょう」の改定は、2025 年度に行うこととした。
- ・ つくば市のふるさと納税の返礼品として英単語カレンダーを含んだ英語教材を販売した。5 ヶ月で合計 14 件の申し込みがあった。

- 他団体と協働し、上記を含めたオリジナル教材の ICT 化を進め、Web 上で配信する。

【振り返り】

- ・ HAYA イングリッシュアカデミーと英語支援者向け講座の立案や英検対策講座のコンテンツ作成など、英語教材の開発に取り組みしている。
- ・ 任意団体あいよみ とともに、英単語学習アプリ「英単語ナビ」の開発に取り組み、2025 年度夏のリリースを予定している。
- ・ これまで形にできなかったアルファベット動画教材やデジタルコンテンツとして作成していたひらがな教材の一部を Youtube で公開した。

5. 学習支援（ライズぷらす）事業

2024 年度目標と振り返り

- 学校に行っているといないに関わらず、英語の読み書きに困難を示す子を主な対象としたハイブリッド英語講座を開講する。

【振り返り】

- ・ 短期集中講座として 8 月と 9 月に対面での英語講座を開催した。
- ・ 年度当初は対面での講座開催を予定していたが、広く参加者を募り継続性して実施できるよう、会員制の教材シェアサイト「ライズぷらす」を立ち上げることにした。
(<https://www.rise-plus.net/>)

- 同様に、学びプラネット合同会社と協働し、読み書きに困難を示す子らに、その ICT 活用スキルを向上させることで、苦手を補い得意を伸ばすプログラムを実施する。

【振り返り】

- ・ 学びプラネット合同会社と協働し、iPad を学びツールとして活用する講座を実施した。6 回連続講座を 2 クール行い、計 5 名の児童が参加した。県を超えた遠方からの参加者もあった。

- さらに、生（性）や自身、社会についてより広く深く考える機会を設けるなど、誰もが気軽に通える「もうひとつのライズ学園：ライズぷらす」を開設、運営する。

【振り返り】

- ・ 池田 幸也氏（茨城キリスト教大学生生活科学部心理福祉学科 兼任講師）の協力のもと、教科としての社会科ではなく、未来を生きる子どもたちが自分と社会との関わりを知ることを目的にした「未来しゃかい」のプログラムを、毎週火曜日放課後に計 36 回行った。
- ・ 中井聖氏（生と性のはぐくみ研究室 はぐ♡ラボ メンバー、思春期保健相談士、日本思春期学会性教育認定講師）の協力のもと、ライズ学園の在籍者を対象に親子イベントやお話を開催しながら、プログラムの開発に努めた。

6. その他

2024 年度目標と振り返り

- ウニベルシタスつくば との協働による運営体制の改変に伴い、おすびつくばのホームページをリニューアルし、活動趣旨の周知に努める。

【振り返り】

- ・ おすびつくばのホームページをリニューアルするほか、チラシを作成し、イベント時には配布するなどした。
- ・ 共催企画としてオープンスクールや視察研修会を設けるなどし、活動を理解してもらう機会を設けた。

- SNS 等を通じて日々の活動を発信するなどして、新規会員の獲得に努めるとともに、会員の継続率向上に努める

【振り返り】

- ・ 保護者の協力も得て、SNS での情報発信機会やフォロワーの増加に努めた。これまでのクラウドファンディング支援者や教材購入者にも随時情報を配信した。

- おすびつくば市民大学 や リブラリウム（コミュニティ・ライブラリー）の周知に努め、より多くの人に週末の おすびつくば に足を運んでもらえるようにする。

【振り返り】

- ・ co-en 主催のイベント（5 月、8 月）、つくば市社会福祉協議会主催のボランティアフェスティバルに参加。ブース企画を実施するなどし、活動内容と場所を知ってもらう機会とした。

【講演活動等】

- ・ 筑波大学教育学類教育インターンシップ 基礎論 登壇：小野村
- ・ 県西地区 PTA 指導者研修会（主催 県西地区 P T A 連絡協議会）登壇：小野村
- ・ 「子どもたちが伝えたいこと～本来の教育のあり方を目指して～」
（主催 つくばに自由な学校をつくる会） 登壇：小野村
- ・ 「子どもたちの主張～多様な学び方について、子どもたちが伝えたいこと～」
（日本特別ニーズ教育学会 ラウンドテーブル企画） 登壇：小野村
- ・ 「つながる縁日」（主催 不登校・多様な学びネットワーク茨城）に出展
桜総合体育館 北村・松井・大嶋